

主張

「GIGAスクール構想」の実現に向けて

宮澤 一 則



二〇二三年までの実施を目標としていた「GIGAスクール構想」は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、前倒しのような形で急速に進み、現在はほとんどの自治体で一人一台端末（タブレット）の配付が実現されている。この「GIGAスクール構想」は、「Society 5.0の時代をたくましく生き抜くために計画された事業であり、「個別最適な学び」や「協働的な学び」に活用されることが期待されている。また、この背景には、日本の子供たちはタブレット等をゲームや通信の手段として活用しているが、学習に活用する機会が少ないという課題もある。もともと、この「GIGA」とは、「Global and Innovation Gateway for All」という言葉の略であり、「全ての子供たちにグローバルで革新的な扉を」という意味になる。つまり、これからの社会を生き抜いていくために必要なツールとして、タブレットを活用し、広い視野をもちながら、新たな発想や気付きなどにつなげ、学びを広げていくことである。このような主旨を理解し、いかにしてタブレットを活用していくか、校長として有効な策を講じていく必要がある。ここで気を付けなくてはいけないことは、活用することは手段であって、目的ではないということである。タブレットを使うために授業等を計画するのではなく、タブレットの機能や特性を考え、使用



することで効果が期待できる場合に利用すればよい。

配付されたタブレットには、データの出し入れや蓄積、動画の撮影や配信、離れた人との交信、情報の収集や発信、デジタルアートやプログラミングなど、様々な機能がある。これらを活用すれば、学びの幅が大きく広がることは容易に想像がつく。今回のコロナ禍において、これらの機能を積極的に活用した学校も多いだろう。タブレットを使用することで、そのよさや課題が見えてくると同時に、こんな活用もできるのかという新たな気持ちにつながることもある。まずは、必要に応じて、様々な場面で工夫しながら、使っていくことが重要である。オンライン授業では、一定の可能性を確認することはできたが、一人一人の学習状況を見守りながら、きめ細かな指導を行うには限界があることも分かった。生徒が演習等の個別学習を行うには、タブレットの活用が有効かもしれないが、やはり、つまづいている生徒や配慮が必要な生徒の対応を考えると教師が学びの支援を直接行うことが欠かせない。今後は、教師による対面の指導を基本とし、タブレットを用いた学習を取り入れるような、それぞれのよさを導入したハイブリッド型の学習が進むと思われる。

GIGAスクール構想により、今後もタブレットを活用した学びは広がっていくだろう。しかし、Society 5.0を踏まえた人材育成でも、感性など、人間らしさの重要性が示されている。これからは、ICTやAIにより、社会が大きく変わっていく。だからこそ、人間にしかできないこと、人間らしいことは、しっかりと固持し、人間中心の社会を創っていくなければならない。GIGAスクール構想を確実に進めていくためにも、タブレットの機能を有効活用し、人間らしさを見失わないようにしていきたい。

(全日本中学校長会顧問・板橋区立中台中学校長)